

平成24年度和裁士技能検定（1級）学科試験解答

実施日：平成26年3月9日
 所用時間：90分

1. 次の文を読んで、正しいものには○、誤っているものには×を付けなさい。（配点10点）
- (×) 男物綿入れ長着の袖口は広口袖である。
 - (○) 女物綿入れ長着の寸法、用尺、裁ち方、ヘラ付けは女物袷長着と同じでよい。
 - (○) 男女の丹前の掛衿や袖口布は黒琥珀、黒八丈などを用いる。
 - (×) 袴天の裾折り返しは、後身頃より前身頃の方を多くする。
 - (○) 丹前の名は、江戸時代の丹前風呂の客に愛用されたことに由来する。
 - (○) 無双羽織の胴接ぎは前裾か肩山である。
 - (×) 女物羽織の衿用布は羽織丈に15cm（4寸）を加えたものを2倍すればとれる。
 - (○) 千代田衿は都衿より堅衿下がりが少ないので堅衿丈を長くする。
 - (○) 井戸の井の字を図案化したものを井桁文様という。
 - (×) 唐草模様は日本古来のものである。

2. 次の着装に関する説明文の中で、正しいものには○、誤っているものには×を（ ）の中に記入しなさい。（配点5点）
- (×) 女物和服の礼装用の帯には、染物が適している。
 - (×) 鯨小紋のきものは、紋を付けても略礼装にはならない。
 - (×) 女物の羽織・道行コートは、室内では着用しない。
 - (○) 色無地の一つ紋付は、帯を替えれば、慶弔ともに使用できる。
 - (○) 男子正式礼装は、慶弔ともに同じである。

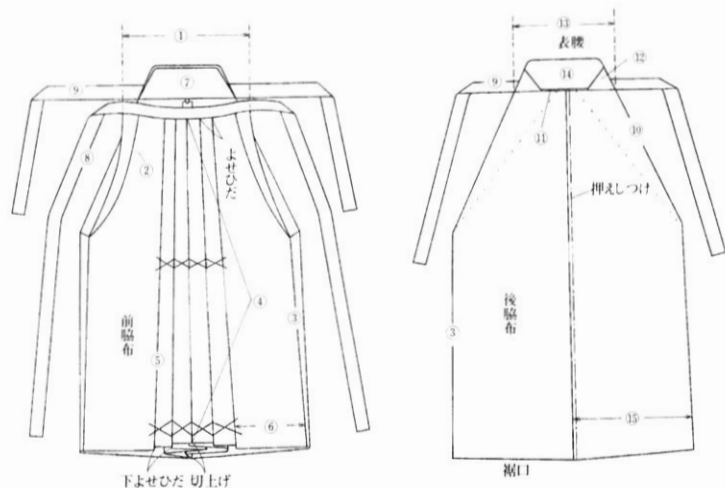
3. 次の文の（ ）の中に適当な語句、又は、寸法を入れなさい。（配点10点）
- 本裁女物長襦袢の着丈（身長×0.8～0.83 または 身長-27～30cm（7～8寸））。
 - 男子の正装の場合、足袋は（ 白 ）をはく。
 - 繊維を大別すると、天然繊維と（ 化学 ）繊維にわけられる。
 - 魚子織（ななこおり）とは（ 平織風 ）の帯地である。
 - 身長175cm（4尺6寸2分）の男子袴の紐下寸法は（ 87～89cm（2尺3寸～2尺3寸5分） ）位がよい。
 - 村山大島は（ 東京 ）が産地である。
 - 男帯（角帯）の帯丈は（ 4m～4.2m（1丈5寸～1丈1寸） ）位である。
 - 長襦袢の仕立てで、鳩胸の人は前が下がるので、身八つ口に（ タック ）をとるとよい。
 - 次の文様の名称にふりがなをつけなさい。毘沙門亀甲（ びしゃもんきっこう ）。
 - 身長157cm（4尺1寸5分）の女性用袴の紐下寸法は（ 92～93.5cm（2尺4寸～2尺5寸） ）位がよい。

4. 次の紋の名称を下記の語群から選び、（ ）に平仮名で記入しなさい。また、よみ仮名を（ ）の中に記入しなさい。（配点10点）

(五七の桐) (片喰) (遠い鷹の羽) (橘) (梅鉢)
 《ごしちのきり》 《かたばみ》 《ちがひまかのは》 《たちばな》 《うめばち》

・剣片喰 ・九曜星 ・五三の桐 ・木瓜 ・橘
 ・梅鉢 ・遠い鷹の羽 ・片喰 ・葛 ・五七の桐

5. 次の図は、男物行燈袴の完成図であるが、①～⑮の名称を記入しなさい。（配点15点）

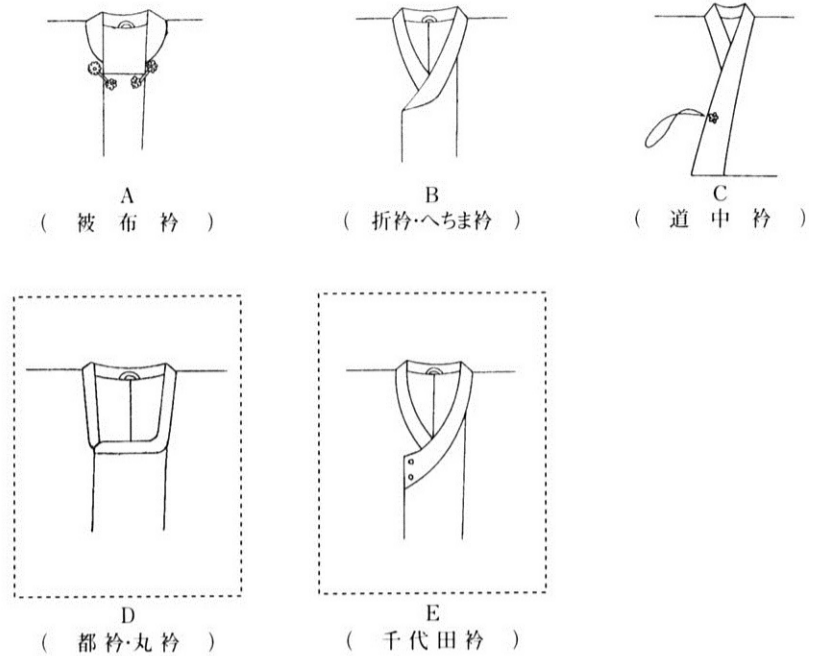


- (前腰巾)
- (笹ひだ)
- (相引)
- (紐下)
- (一のひだ)
- (前脇巾)
- (裏腰)
- (前紐)
- (後紐)
- (投げ)
- (玉ぶち)
- (付菱)
- (後腰巾)
- (腰板)
- (後巾)

6. 下記の模様の中で語句が正しいものには○を、誤っているものには×を（ ）の中に記入しなさい。（配点10点）

- 麻の葉 (○)
- 市松模様 (×)
- 筋格子 (○)
- 紗綾形 (×)
- 亀甲 (×)
- 矢筈 (○)
- 鱗 (×)
- 滝編 (○)
- 大名編 (×)
- 松皮菱 (○)

7. 次の3つのコートの衿型名を記入し、それ以外の変り衿コートの名称と前から見た図を書きなさい。但し、道行衿は除く。（配点5点）

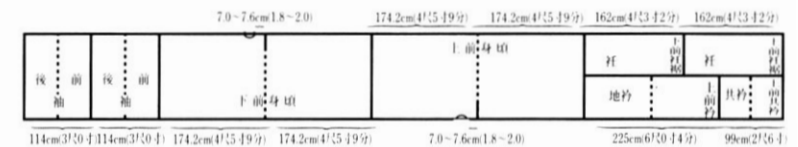


8. 次の織物の産地の県名を（ ）の中に記入しなさい。（配点10点）

- 紅花紬（山形）
- 塩沢お召（新潟）
- 郡山紬（岐阜）
- 白山紬（石川）
- 唐棧縞（千葉）
- 仙台平（宮城）
- 黄八丈（東京）
- 結城紬（茨城）
- 佐賀錦（佐賀）
- 丹後縮緬（京都）

10. 次の5問について、各部分を寸法に応じ配分し、その名称を良く分かるように記入して裁断図を書きなさい。（裁ち切りは実線、折り山等は点線で記入）。（配点各問5点）

①並幅物12m50cm（3丈3尺）の反物で、一ッ紋付本裁女物長着を下記指定寸法で追いつき裁ちたい。
 裁断図および各部の寸法と名称、紋の位置を記入しなさい。
 身丈背より出来上がり165cm（4尺3寸5分）・袖丈出来上がり53cm（1尺4寸）
 繰越2.6cm（7分）・袷下（衿下）出来上がり81.5cm（2尺1寸5分）・他は標準寸法とする。
 (注) 袖の前後、上前身頃、上前衿、上前共衿、上前衿裾などの位置を明記すること。



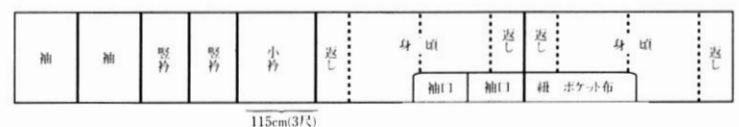
- ②並幅物10.2m（2丈7尺）の反物で、男物行燈袴を作りたい。その裁断図を記入しなさい。



- ③並幅物15.2m（4丈）の反物で、四ッ身長着（共裾）と羽織を裁ちたい。その裁断図を記入しなさい。



- ④並幅物11m（2丈9尺）の表地で千代田衿袷半コートを作りたい。裁断図を記入しなさい。ただし、小衿のみ要尺を記入しなさい。



- ⑤大幅物6m（1丈5尺8寸）の反物で、女物長着を作りたい。その裁断図を記入しなさい。

